

# Media Science

## ビジネスや社会を変える注目のメディア、「デジタルサイネージ」とは!?



業界最大の展示会「デジタルサイネージジャパン」における本学ブース



香港の地下鉄駅のエスカレーターサイネージ



ウルグアイ カラスコ国際空港の大規模サイネージ

多彩なメディア社会を追求していくうえで欠かせない基礎を養うために、東京工科大学メディア学部では、メディアの原理・技術を幅広く網羅する「メディア基礎科目」の学修に力を入れています。ここで身につけた知識・技術は、さまざまなメディアに展開されますが、その一例が今回ご紹介する「デジタルサイネージ」です。デジタルサイネージとは、駅や空港、街頭や店頭、イベント会場などで、広告やニュース、プロモーション映像などさまざまなコンテンツを表示するシステムのこと。最近では、タッチ操作や音声認識に応じたインタラクティブな情報提供や、マルチスクリーンを活用した斬新な映像体験など、その機能やサービスは想像以上に進化しています。

ネットワークを利用したタイムリーな情報やビッグデータの収集、販売促進など、ビジネスや新ビジネスの創出に役立つメディアとして注目は高まっており、地域の活性化や公共サービスの充実に活用する動きも広がっています。デジタルサイネージの国内市場は、2012年の約800億円から2020年には約2500億円へと拡大することが予測されています(※1)。

このように急発展中のデジタルサイネージですが、日本は先端を行く欧米の国々から数年の遅れをとっているのが現状です。特にコンテンツ制作に関するクリエイティブな視点や、ビジネスへの展開などに課題があり、それらの強化とグローバルな舞台上で通用する人材の育成は、わが国の急務となっています。

こうした背景のもと、東京工科大学メディア学部は、2010年より他大学に先駆けてデジタルサイネージ教育を正規のカリキュラムに採用。産学連携による実践的な教育を行っています。この取り組みは、広告や映像などのコンテンツ関連、ソフトウェア・ハードウェア、ネットワークなどのICT関連をはじめ、デジタルサイネージに関わる様々な企業から高く評価されており、すでに多くの人材が業界の第一線で活躍しています。

※1: 2013年 富士キメラ総研調べ

## デジタルサイネージ教育をリードする東京工科大学メディア学部

東京工科大学のデジタルサイネージ教育の大きな特徴は、業界の有力企業である(株)ファン・ファクトリーとの提携により、専門家の指導のもとで最先端のデジタルサイネージソフトウェアを用いた本格的な演習を行っている点にあります。また、同社のコンテンツやシステムの開発業務に学生が参加するユニークな「コープ教育」も実施。こうした実践的教育的成果は、業界最大の展示会「デジタルサイネージジャパン」ほか、学内外で積極的に公開しています。産業界の人材需要の高まりに加え、演習に参加する学生も増加しており、メディア学部では今後、さらにデジタルサイネージ教育の充実を図っていく予定です。

### 日本から世界へ、新しいアイデアを発信してほしい

私が講師を担当しているプロジェクト演習では、チームの共同作業であるデジタルサイネージ制作を進めていくうえで欠かせないディレクション能力の養成に力を入れます。また、プロジェクトの要件定義や問題点の洗い出し、仕様の決定など、実際のビジネスと同じ作業の進め方や手法を取り入れ、卒業後、すぐに第一線の現場に適應できる知識と技術を身につけていきます。学生時代からプロ仕様の一流ソフトウェアを用いて、デジタルサイネージに関する最先端の技術を学べる環境はほかにはありません。ぜひ、世界に向けて新しいアイデアやビジネスモデルを発信できる人材をめざしてください。



(株)ファン・ファクトリー ディレクター／東京工科大学メディア学部 演習講師 知久 淳一氏

### デジタルサイネージ教育の概要



◀ デジタルサイネージ制作に取り組む研究室

▼ 学生がデジタル物産展(スマートマート)のシステムを開発

#### ● プロジェクト演習

「まちづくりメディア(デジタルサイネージ)」学内のコンビニエンスストアに設置するインタラクティブ性のあるデジタルサイネージ「Campus-i」のシステムやコンテンツの制作を中心に演習を展開。そのほかサイネージを利用して消費者と地方の農産物などの生産者を繋ぎ、地域支援に貢献する「デジタル物産展」の実証などにも取り組んでいます。

#### ● メディア専門演習

「デジタルサイネージデザイン」「Campus-i」で学生に向けて発信する広告を制作。静止画とは違う、インタラクティブな機能を生かしたコンテンツ制作に欠かせない多彩な技術や柔軟な発想力を、実践を通して学んでいきます。



#### ● その他、関連授業

メディア学の基礎として、より多くの学生がデジタルサイネージの魅力や概要に触れる授業を用意。そのほか、CG、映像、音楽などコンテンツ関連の授業や、プログラミング、ネットワーク、マーケティングなどに関連する授業で身につける多彩な知識やスキルが、デジタルサイネージ学習を支える基盤となります。

学外発表  
レポート

## 業界最大規模の展示会 デジタルサイネージジャパンに出展!



2014年6月、東京工科大学メディア学部は、幕張メッセで開催された国内最大のデジタルサイネージ専門展示会である「デジタルサイネージジャパン 2014」に出展しました。本学の出展は4年連続であり、この分野における実践的教育のバイオニアとして、本学に対する評価は業界で揺るぎないものとなっています。出展の目玉は、学生生活のサポートを目的とする「Campus-i」と名付けたデジタルサイネージ。プロジェクト演習で制作し、実際に八王子キャンパス内のコンビニで稼働しているデジタルサイネージに、新たな仕組みとコンテンツを搭載し提案を行いました。

注目の機能のひとつが、学生証をサイネージにかざすと、その学生が興味のある就職や資格の情報や、授業、サークルに関する案内などを表示するもの。画面上のQRコードをスマホで読み込むことで、より詳細な情報へのアクセスも可能となりました。また、タッチ操作で書籍や音楽のダウンロードサイトにつながり、内容の確認や購入ができるなど、ビジネス展開を意識した工夫も盛り込みました。

出展者と来場者のほとんどを企業関係者が占める中、デモ展示や説明に学生が奮闘。ビジネスの最前線を肌で感じながら、自分たちの課題や実力を確かめる絶好の機会となりました。



### 主役は私たち! ——— 在学生の REAL VOICE

**原動力はチームワーク!** ●メディア学部3年 曾我 公則 県立大津高校出身(熊本県)

デジタルサイネージの制作に欠かせないのはチームワーク。一人ひとりを持つ知識や情報を集めることでサイネージの魅力や可能性が広がることを、今回の体験で実感しました。私は主にシステムの構築を担当しましたが、そこで役立ったのは1年次に学んだネットワークに関する基礎的な知識。普段の授業の大切さを知ることができたのも収穫です。

**幅広いスキルが身につきました** ●メディア学部3年 城戸 雄大 東洋高校出身(東京都)

デジタルサイネージは、システムやコンテンツ、プログラム、さらには空間演出など、多くの知識と技術の集合体ですから、その制作に携わることでメディア関連の幅広いスキルを身につけることができます。私もデザインやプログラム、動画など、将来の夢である映像関連の仕事をめざすうえで支えとなる多くのことを学びました。

**本気の舞台が自分を育てる** ●メディア学部3年 小野 智也 県立郡山高校出身(福島県)

全体の進行管理などを行うプロジェクトマネージャーを担当。今回は制作が遅れて、最後は滑り込みでの出展となりました。学外での発表だからこそ、スケジュール管理の重要性をリアルに学びましたね。デジタルサイネージは知れば知るほど可能性を感じるメディア。卒業後はデジタルサイネージ業界に進んで、自分のアイデアを形にしたいと考えています。



本学ブース前にて。左から、曾我公則、城戸雄大、小野智也

OBからの  
メッセージ

## メディアの可能性の開拓をめざし、卒業生が業界で活躍中!



### ▶ 世界に感動を与えるサイネージを創り出したい

会社ではデジタルサイネージのコンテンツ制作やシステム調整、クライアントへの提案資料の作成などを担当しています。入社1年目から、これほど幅広い仕事に関われるのは、学生時代の演習や卒業研究で、ビジネスに直結する実践的な内容を学べたからだと思います。企業の現場で報酬を得ながら業務に携わるコーオペ教育も、実力を伸ばすうえで有意義な経験でした。私が初めてデジタルサイネージに興味を持ったのは大学2年のとき。先生に見せてもらったマルチスクリーンや巨大ディスプレイを駆使した海外のダイナミックな事例に衝撃を受けました。あのときのワクワク感は、今も仕事のモチベーションになっています。いよいよ、日本ではオリンピックが開催されますし、デジタルサイネージの活用シーンはますます増えるはず。世界の人に感動を与えるサイネージを、この手で手掛けられたらうれしいですね!

(株)ファン・ファクトリー  
山本悠真さん  
2014年3月メディア学部卒業 道立札幌手稲高校出身(北海道)



デジタルサイネージ教育に関するより詳しい情報を Web で公開中! ▶ <http://www.teu.ac.jp/gakubu/media/index.html>

●デジタルサイネージ教育に関するお問い合わせは—  
東京工科大学 広報課 ☎0120-444-903  
[スマホ・PC] <http://www.teu.ac.jp/> [E-mail] [pr@so.teu.ac.jp](mailto:pr@so.teu.ac.jp)

東京工科大学 **メディア学部**  
〒192-0982 東京都八王子市片倉町 1404-1